

香川高専初！

未活用特許「光 ID」実証型アイデアコンテストで地域課題に挑む 「光 ID」アイデアピッチコンテストを開催

～教育×特許×地域！香川高専が「光 ID」技術でイノベーションを創出～

8 月 5 日（火）、香川高等専門学校（住所：香川県高松市勅使町 355、校長：荒木信夫）にて未活用特許「光 ID」を活用したアイデアピッチコンテストを開催します。学生が企業技術者と連携し、地域課題の解決に向けてプログラム開発まで取り組む、香川高専初の実証型教育モデルであり、〈教育×特許×地域〉が融合した、社会実験的なイノベーションの場として注目度の高い取り組みです。

1. 開催概要

香川高等専門学校生の柔軟な発想力、技術開発力を以て、未活用特許技術「光 ID 技術」を活用した社会課題解決や新サービス創出につながるアイデア 5 プランをコンテストで発表します。優秀なアイデア 2 プランが表彰され、企業技術者と連携しスマートフォンアプリ開発を行ないます。

- 日程：2025 年 8 月 5 日（火）
- 会場：香川高等専門学校高松キャンパス（香川県高松市勅使町 355）
建設等及び講義棟 3 F 第 2 講義室
※北西職員駐車場（無料）をご利用ください。
校内各所に会場マップを掲示しております。
- 対象：香川高等専門学校生（学内選抜 5 チーム）
- 主催：香川高等専門学校（後援：高松市 協力：むれ源平 石あかり実行委員会）



アプリ開発後は社会実装プロセスに移行し、本年 11 月頃を目途に高松市の屋島エリア等の活性化に向けた実証を予定しています。

2. 未活用特許と「光 ID」技術について 別紙「2-2」参照

3. コンテストの目的・狙い

本コンテストは、香川県内の大学・短期大学、高等専門学校などの高等教育機関と産業界、自治体が連携して地域発展を目指す取組み「大学・地域共創プラットフォーム香川」（PF 香川）のチャレンジ補助金にて採択された「高松市の地域観光活性化に寄与するアプリの性能評価事業」の一環として開催され、以下を主旨としています。

- 地域課題の解決に向けたアイデア創出
- 地域人材の発掘と育成
- 特許技術活用した実践的な知財教育
- 産官学連携による地域イノベーションの推進

4. 当日のプログラム

14：30	開	場	
15：00	開	始	審査員ご紹介
15：10	ア	イ	各チームプレゼン時間 8 分（質疑 3 分含む）×5 チーム
16：00	発	表	別室にて審査、会場では協力企業様等のご紹介
16：30	審	査	最優秀賞、優秀賞の 2 賞
16：40	講	評	パナソニック IP マネジメント株式会社
17：00	終	了	18 時まで会場を開放しています。情報交換の場として、ご利用下さい。 デモ機ご紹介スペースを設けますので、併せてご見学ください。

5. 本件に関するお問い合わせ先

PRESS RELEASE 2-2

香川高等専門学校（高松キャンパス）総務課総務係 坂元 大介

TEL：087-863-3818 FAX：087-869-3819 MAIL：soumu@t.kagawa-nct.ac.jp

●未活用特許について

未活用特許とは、特許権者自ら活用可能性を見出せなかった特許技術を他社に活用いただける特許です。特許権譲渡やライセンス契約等を通じて他社に利用を推進しながら、特許権者との共創事業創出、企業価値向上等に繋げる仕組みです。利用者は、開発コスト削減、新製品創出、ビジネスチャンスの拡大などが期待できる取組みとして評価されています。

●「光 ID」技術について

本コンテストは、パナソニック IP マネジメント株式会社の技術支援のもと、光 ID における特許技術が活用されます。

光ID

LED光源を活用してスマートフォンに効果的な情報提供ができる

技術概要

LED光源から光ID信号を発信し、スマートフォンのアプリを介して情報を表示

病院や地下のように4G、5Gなどの電波が届かない場所でも、Wi-Fiなどのモバイル通信ができれば情報提供が可能

■ 特許第5395293号 他



特徴

- ▷通信経路が見えるため、直感的に受信、遮蔽が容易
- ▷電子回路に干渉せず、人体への安全性が高い
- ▷直進性があるため、屋内位置測位に利用でき、混信しづらい
- ▷電波法の適用対象外であり、法規制がなく自由に利用可能
- ▷照明としてのエネルギーで足り、通信エネルギーが不要
- ▷表示物のデザインを損なわない形でID情報を追加可能



効果的な使い方

活用シーン

広告・情報発信

- ・商品情報の配信やECサイトへの誘導
- ・展示空間で解説を配信。来場者が興味ある情報に個別ですぐにアクセスできる

クーポン・スタンプ

- ・お得なクーポン・スタンプを配信し、利用率・リピート率の向上を見込む

拡張現実(AR)表示

- ・光ID信号とともに周辺の空間をスマートフォンで認識し、現実の映像とデジタル情報を合成した映像をスマートフォンに表示

活用分野

- ・デジタルサイネージ
- ・美術館・博物館などの展示空間
- ・店舗空間

